

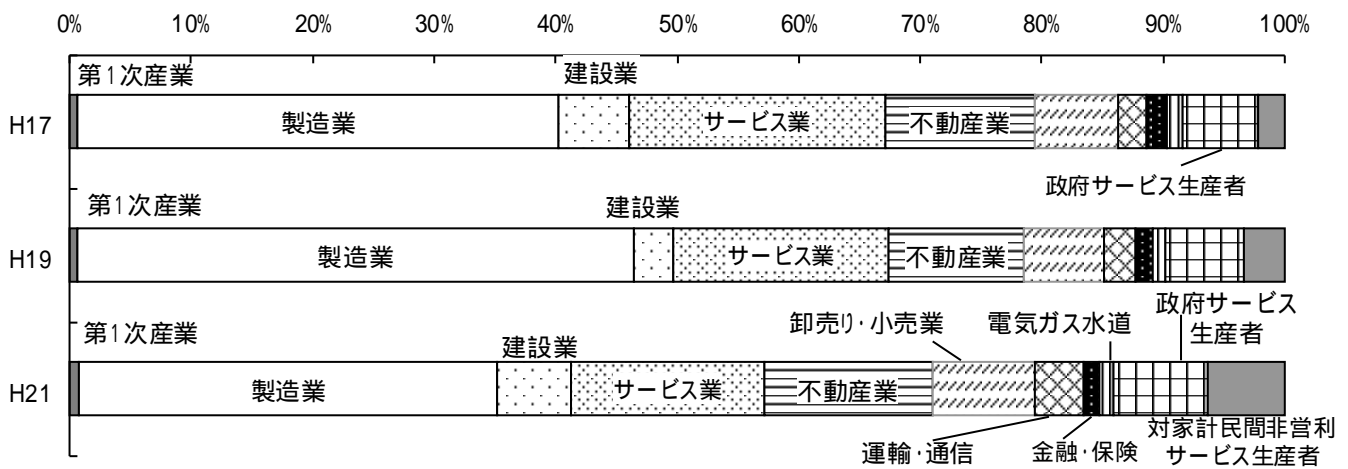
あれこれ通信

TeL / Fax 0493-62-7997
http://space.tom-shibuya.com
e-mail 713@tom-shibuya.com

渋谷とみ子の議会報告No.71

10年後・脱原発を目指し、新しい産業でまちづくりをしましょう
H21年度の嵐山町総生産高は621億2800万円でした。
H21年度嵐山町一般会計決算歳入69億円・歳出67億円

嵐山町町民経済計算

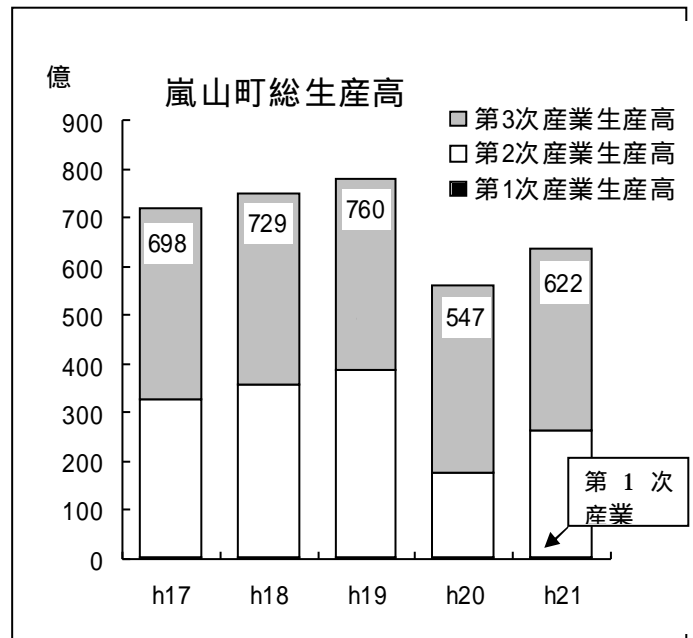


嵐山町の製造業減少

上記のグラフは嵐山町の産業による経済状況を表しています。製造業は、H21年度35.4%に減少し、嵐山町も第3次産業の割合が増えています。下のグラフではリーマンショックによる不況で、H20年度総生産高の落ち込みがわかります。

第1次産業は総生産高の0.8%

嵐山町も、日本のエネルギー自給率4%、木材自給率20%、食料自給率40%と同様に、サービス産業を中心にした経済に変わってきました。上のグラフも右のグラフでも読み取るのが難しいのですが、農林業の第1次産業の総生産高は0.8%です。食料とエネルギーの海外依存でのサービス産業の発達では日本と嵐山町は持続不可能になります。



脱原発のまちづくりを

少子高齢化で、IT産業と自動車産業は不可欠です。ITも自動車産業も中心はインドに移りました。グローバル経済で、大企業は利益の上がる国に移転します。大企業に頼らない経済、小さい単位で

お金が循環する仕組み・里地里山を生かし、山の生産物を燃料等に活用する事業と生活、地区ごとの太陽光発電所や太陽熱利用を利用した事業で生活できる社会に変革しましょう。持続可能な新しいまちづくりが求められています。